

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標	フエ省及び近隣省における出産可能年齢の女性及び妊産婦から中年までの女性の生涯にわたる健康の向上, 質の良いリプロダクティブヘルス (RH) サービスの提供とモデルづくり。
(2) 事業内容	<p>2015年(平成27年)3月15日~2015年(平成27年)9月14日までに実施された事業内容と経過は以下の通り。</p> <p>(ア) <u>「女性健康センター」(WHC)の建設</u> プロジェクトの目的である質のよいRHサービスを思春期から更年期までの女性に対して提供するモデルとなるサービス施設として、WHCの建設を開始した。建設地は、フエ市の新都市計画予定地の一画をトゥア・ティエン・フエ省(以下、フエ省)人民委員会より無償で提供された。建設に関して必要な書類上の手続き、および、建設予定地の地下を通る別施設への水道管移設の書類上の手続きに想定以上の時間がかかったが、書類の手続き完了後は速やかに建設を開始し、その後は順調な進捗である。8月までに建設の基礎工事が終了し、現在1階部分の建設を実施中である。国家基準を満たす建設事業を担保するため、事業監督の専門機関に依頼し、定期的な建設モニタリングを行い、建設の進捗・スケジュールの見直し、建設の質や強度のチェック、報告・相談を随時実施している。</p> <p>(イ) <u>オリエンテーション・ミーティング(プロジェクト開始会合)の開催</u> 2015年4月22日、プロジェクト開始のオリエンテーション・ミーティングを開催した。現地で連携協力して活動を実施するベトナム助産師会と共に、保健省、フエ省人民委員会、フエ省、クアンチ省、クアンビン省各保健局等の関係者計92人の参加を得て、プロジェクトの目的や活動などの概要を共有した。本会合の開催により、プロジェクト地域が抱える問題への認識を強くし、プロジェクト活動への理解をさらに深め、活動実施に必要な協力体制を整えることができた。今後も関係者間で十分なコミュニケーションを行い、効果的なプロジェクト活動を実施していくことを確認した。別添3. オリエンテーション・ミーティング開催報告概要[和文]</p> <p>(ウ) <u>指導者研修の実施</u> 2015年5月に指導者研修を実施した。対象者はプロジェクト対象地域の省・郡病院等に勤務する医師・助産師の計20名である。研修参加者は、プロジェクトで実施する農村・遠隔地の助産師の研修では講師としての役割を果たすとともに、継続的に農村・遠隔地の助産師の指導にあたる人材となる。また、各勤務先の施設においてもサービスの改善を行う指導者としての役割を担うことが期待されている。研修内容は、①(ベトナム保健省から助産師の再教育の重点課題とし</p>

てあげられた)助産技術や、早期新生児ケアとその指導技術、  
 ②女性の生涯にわたる健康の視点での、更年期ケア、思春期  
 ケア、カウンセリング技術である。また、都市部の課題でも  
 ある女性の人権と尊厳に配慮した妊産婦ケアのための「患者  
 に寄り添うサービス(クライアントフレンドリーサービス)」  
 の意識づくりや具体的実践、さらに、医療環境の維持改善の  
 手法としての5S(整理、整頓、清掃、清潔、習慣)を紹介  
 した。研修にはベトナム保健省、日本助産師会、ジョイセフ  
 から経験豊かな講師を招き、村の助産師への効果的な研修指  
 導技術や現場での具体的な指導方法を、ケーススタディやロ  
 ールプレイの活用を通して習得することができた。参加者全  
 員が厳格な終了試験を通過して、指導者としての自覚と技  
 術・知識が向上したのみならず、指導者研修全体を通して、  
 参加者による積極的な意見交換や議論、省・郡レベルの現場  
 やコミュニンでの事例紹介や経験の共有等の効果により、各  
 省や郡を超えた指導者同士の連帯を図ることができた。  
 別添4. 指導者研修報告概要[和文]参照

(エ) 助産師再研修の実施

6月と8月に農村・遠隔地のコミュニンヘルスセンター  
 (CHC:村の保健所)で勤務する助産師を対象に、2週間の  
 助産師再研修を計2回、合計39名に対して実施した。目的  
 は、①助産技術・早期新生児ケア、②女性の生涯にわたる健  
 康を守るために必要なRHサービスの知識や技能の習得であ  
 る。研修では、思春期の若い女性へのケア、出産後の女性の  
 ためのメンタルヘルスケア、更年期ケア、カウンセリング技  
 術、クライアントフレンドリーサービスなどに加えて、乳が  
 ん・子宮がん検診、胎児・新生児スクリーニング検査、安全  
 な中絶などの新しい知識や技術も紹介した。2週間の研修に  
 は、講義の他、グループワーク、ロールプレイ、モデルを使  
 用した演習、病院実習、実技試験が含まれる。本研修は、5  
 月に指導者研修を受講した講師を中心に、フエ省保健局、フ  
 エ中央病院、フエ医科大学、RHセンター、ベトナム助産師  
 会、日本助産師会からの講師の協力により実施した。別添5.  
 助産師再研修報告概要[和文]参照

(オ) WHC スタッフ研修の実施

6月に、日本助産師会専門家の協力を得て、WHCスタッフ計  
 13名に対して更年期、産褥期のメンタルヘルスの理解をよ  
 り深め、質の良いサービスを提供するための講義を実施し  
 た。乳房ケア研修および正常分娩介助技術のブラッシュア  
 ップ研修は、10月・11月の実施を計画している。

(カ) 地域へのアウトリーチ・サービス(出張クリニック)

年間8回の実施を予定しているアウトリーチ・サービスによ  
 って、質のよいRHサービスを農村・遠隔地の女性に届けら

	<p>れるよう、ベトナム助産師会クリニックのメンバーを中心に、サービス内容やツールの検討を行った。9月中旬から、アウトリーチ・サービスの実施および地域における健康教育の啓発活動も実施していく。</p> <p>(キ) <u>住民の RH 知識に関する聞き取り調査の実施</u> 7月から8月にかけて、フエ省、クワンチ省の対象郡の20コミュニティで、RH知識に関する聞き取り調査を実施した。現在妊娠中もしくは1歳以下の子供を持つ女性を対象に、計306名に対して聞き取りを行った。現在結果を集計、分析中である。聞き取り調査の結果は、今後の地域で実施する健康啓発活動の内容に反映させるとともに、ニーズに基づいた質のよい効果的なサービスにつなげるために活用する。</p>
(3) 達成された効果	<p>1. <u>女性の生涯にわたる健康を向上するための包括的 RH ケアサービスの提供</u> WHCの建設は、書類上の手続きに予測していた以上に時間がかかり、当初の計画より進捗が遅れたため、建設スケジュールの見直しを行った。しかし、必要な手続き終了後の工事はほぼ順調に進んでおり、事業期間内に完成する見込みである。8月までに基礎工事が終了し、現在1階部分を建設中である。 プロジェクト開始後、関係機関、対象省の保健局との協議を重ね、研修の実施や定期的なアウトリーチ・サービスや健康教育実施のための協力体制が整った。</p> <p>2. <u>助産師能力の向上と、プロジェクト地域内の農村・遠隔地の女性の RH に関する知識の向上</u> 村の助産師対象の研修で講師となる資格を持つ人材20名を対象に指導者研修を実施し、指導技術ならびに専門知識、技術の向上を図ることができた。この指導者研修の受講者が中心となって講師を担い助産師再研修を実施した。その再研修に参加した計39名の農村・遠隔地で勤務する助産師の知識・技術・意欲に、目覚ましい向上が見られた。保健省の基準にもとづいて実施したプレテスト、ポストテスト結果の比較では、正解率はフエ省では研修前平均30%であったものが、研修終了後には平均79%へ、クワンチ省では研修前平均21%であったものが研修終了後には平均88%へと大きな変化が見られた。プレテストでは39人中38人が合格ラインに届かなかったが、研修終了後は受講者全員が合格することができた。クワンチ省保健副局長からは、「開始時と2週間後の助産師の表情や態度から大きな違いを感じ、研修前後の目覚ましい変化に驚きを隠せない。研修の学びによる知識・技術や自信は、直接にコミュニティの人々へのサービスの大きな変化になるだろう」と今後の助産師の現場での働きに期待するコメントが聞かれた。コミュニティの施設</p>

	<p>で直接地域の女性の健康に結びつく責任の重い仕事を担う助産師の再研修がいかに重要かということが、保健省、保健局の責任者に再確認された。同時に今後のプロジェクト活動への協力体制も強化された。</p>
(4) 今後の見通し	<p>プロジェクトの活動は半年間全体を通して順調に実施しており、今期の「包括的なRHサービスの提供モデルの基盤を整備する」という目標は達成が見込まれる。</p> <p>WHC建設は、1月中旬までの建設完了を見込んでいる。建設での様々な手続きを進めると同時に、国家基準の液状廃棄物処理施設の設置義務に対処するため、2年次に速やかに設置をすることで、WHCでの保健サービス提供開始後、滞りなく正常分娩のサービスの提供を行えるよう対応していく。引き続き定期的な建設モニタリングを行い、報告・相談を随時実施していく。また、WHCでの包括的なRHサービス開始の準備として、連携病院との支援体制・搬送体制についての具体的な協議を進め、建設終了後速やかに、サービスを開始できるようにする。</p> <p>今期前半で実施した研修では、参加した助産師の知識・技術の向上は期待以上の成果を見せているため、これらの知識・技術レベルを維持し、現場に活かされるよう、モニタリングや現場での教育にあたる省・郡レベルの助産師との連携強化に向けた体制を整える。また、啓発活動の実施については、対象地域の女性のRHに関する知識を把握する聞き取り調査の結果に基づき、アウトリーチ・サービスや健康教育等に反映し効果的なサービスにつなげる。</p> <p>後半には1年間のプロジェクト活動を振り返り、その成果や経験を関係機関で共有する年次会合を実施し、今後のプロジェクト活動の計画の確認を行い、同時に運営・協力体制を強化する。</p>